まほら

vol.1
2015

題字　薬師寺　高田好胤師

徳のこころ
～輝く人とまちを目指して～

特集
理事長対談

エッセイスト
（薬師寺管主 高田好胤師ご息女）
高田都耶子
×
一般社団法人奈良青年会議所
第56代理事長
倍巌智洋

2015年度
理事役員紹介
年間例会紹介
1月新入会員紹介

JCI
一般社団法人　奈良青年会議所
http://www.nara-jc.or.jp

先人から徳のこころを学ぶ

～思いやりのこころが溢れるまち～を目指して

倍巌 智洋（ばいがん ともひろ）

2015年度一般社団法人奈良青年会議所第56代理事長。
1977年10月5日生
2012年度専務理事
2013年度第62回全国大会奈良大会大会式典委員長
2014年度副理事長を歴任。

高田 お久しぶりです！　奈良青年会議所理事長のご就任おめでとうございます。これからはもう「とも君」なんて呼べませんね。倍巌理事長が副住職を努められている法徳寺さんは高田の家の菩提寺。いつもお世話になりましてありがとうございます。父が息子のように可愛がっていた良明叔父様も奈良JCの先輩理事長さんですよね。月参りに来ていただきまして父もさぞかし喜んでいると思います。

倍巌 ありがとうございます。早速ですが、本年の奈良青年会議所は「明るい豊かな社会の創造」を目的に、徳のこころ～輝く人とまちを目指して～というスローガンのもと運動をスタートさせました。本日は、まずは我われ自身が思いやりのこころや徳のこころを身につけるためにはどのような行動を起こしていくべきか、お聞きしたいと思います。
先ず初めに、56年前当時、高田好胤館長は奈良のチャーターメンバーでありましたが、当時どのような思いで設立に携わられたかご存知でしょうか？

高田 その当時のことは、私も赤ん坊の頃でしたので確かなことはわかりません。当代の裏千家お家元の坐忘斎（ざぼうさい）宗匠も京都JCのOBですが、そのご尊父様の鵬雲斎（ほううんさい）宗匠からのお声掛かりだと思います。親しく御付き合いいただいていましたから。

倍巌 坐忘斎お家本が京都JCの理事長をされて、近畿地区会長を歴任されました。
奈良JCにおいてお茶会同好会設立の際に例会を開催したのですが、坐忘斎お家本にお越し頂きました。1回お会いしただけなのに、すごいみんなのこと覚えてくれていてすごいなと思いましたね。

高田 そう、素晴らしい記憶力のお方です。父が亡くなりました後のこと、坐忘斎宗匠が薬師寺にご献茶に来て下さいました時に、自坊だった法光院までいらして、「時間が無いのですが、せめてお線香だけでもあげさせてください。」と立ち寄り下さったと母がとても喜んでいました。
その折、お家元が若宗匠だったころ父が「僕は、宗之さんのお点前が好きですよ」と言ったのが、とても嬉しく自信になったことを語って下さったそうです。
さて少し父の話をさせて下さい。父は幼いころから野球が大好きでした。学校は野球の名門の大和郡山高校（当時は旧制中学校）の野球部から度々誘いが来たようですが、薬師寺での修業がありますもの、野球部に入ることは出来なかったのです。ですがその後、父は憧れの甲子園球場で野球をする機会をいただきました。それはJCの後輩たちの取計らいで、「高田好胤先輩に憧れの甲子園球場で野球をしてもらおうやないか」と球場を貸し切って野球をやらせてくれたからです。甲子園球場で自分の名前がアナウンスされたときに本当に嬉しくて、お風呂に入りながら「ベーブルースも、ルー・ゲーリックもこのお湯に浸かったのだろうか」と感慨深かった。帰りのバスの中で、一番後ろの席に座った父は、後輩たちの背中を見ながら、「彼らの思いに本当に胸が熱くなった」と言っていました。JCの仲間って本当に良い仲間なのですね。深い触れ合いがあったればこそ、袈裟にはJCのバッヂを付け、生涯JCの手帳を使っていましたもの。

物で栄え　心で滅ぶ

倍巌 薬師寺高田好胤館長様が「物で栄え心で滅ぶ」と訴えられたときから時代はどのように変わっているでしょうか？

高田 都耶子（たかだ つやこ）

奈良生まれ。父は法相宗管長、薬師寺管主の故・高田好胤師。白百合女子大学文学部仏文学科卒業後、エッセイストとして女性誌や教育関係の雑誌を舞台に活躍する一方、講演活動にも力を入れている。東大寺で受戒得度をし、法名華聖を授けられる。著書に『名師の訓え』『父高田好胤』『父からの贈りもの』『心の添え木』（以上、講談社）がある。

高田　昭和40年頃というと、東京オリンピックがあり、時はまさに高度成長期の時代で、みんな「消費は美徳」なんていっていた時代ですね。その時に父は、「物で栄え心で滅ぶ」と世の中に警鐘を鳴らしたんですね。父は日本人の3本の心の柱は、「もったいない」「おかげさま」「ありがたい」なのだといつも言っていました。

倍巌　私の書かせていただいた理事長所信にも、その3つを書かせていただいています。この3つの心の柱が現代では崩れつつあると思うんです。

高田　「感謝の念といいますか、自然を含め自分以外のあらゆるすべてのものに感謝することが大切ですよね。奈良に住んでいる人は当たり前になっているでしょうが、実は奈良には生きている歴史が脈々と続いているのです。そんな中で活動できる奈良JCの方々は本当に幸せですよね。そんな郷土を活かして、世界に誇れる日本の歴史、伝統、文化、民族性、さらには「もったいない」「おかげさま」「ありがたい」の3本の柱を全国に発信していけるんじゃないでしょうか。

おかげさまのこころ

倍巌　幸せはなるのもではない、見つけるものと考えますが、幸せを見つける目を養うためには、おかげさまということを理解しないといけないと思います。おかげさまのこころについて聞かせてください。

高田　幸せというのは与えられるものではなくて、自分で感じるものだと思います。朝起きたときに天に向かって「ありがとうございます。」と十回言うと良いのよと友人が言っていました。簡単なことですが、そこには目に見えないものに対して感謝しなさいということを実践的に示唆しているのでしょうね。

常々父は「受取り方の訓練が大事や」と言っていました。どう受け取れるかで同じ事が違ってくるのだということです。例えば、1000円をもらった時に、100円の10倍と思えるか、10000円の10分の1と思うかで心持ちが違ってくるのではないかと。父が薬師寺の金堂復興のために「百万巻お写経勧進」を始めて、お写経がようやく2万巻になった時に「目標まであと98万願もある。」と行く手の遠さに打ちひしがれそうになったそうですが、「ちょっと待てよ、目標の100万巻の50分の1が済んだと思ったら良いのではないか。あと49回今日までの苦労を重ねれば、達成できないことはないはずだ」と考え直したのです。その時にふと湧いた言葉が、「苦労と仲良くすれば、いつかきっと苦労が味方になって助けてくれます。」というものだったんです。それを座右の銘にして頑張ったと言ってましたね。

倍巌　叱られていても「ああ、今叱ってもらってるんだ。」と思えるかどうかってありますよね。

高田　そうなんです。ただ叱ってもらったことって、後にならないと気づかないものですよね。当たり前のように6時に集合ねと言って、集合できることが奇跡ですよね。もし電車が遅れたり、お腹が痛くなって動けなくなってしまったり、交通事故にあってしまったりしていたら叶わないことなんですよね。私たちが元気でいられること、怪我がない、病気になっていないということは、何かとてもご加護をもらっているおかげというか。

倍巌　普段、普通であることに感謝していかないといけないですよね。

高田　普通であることは良い事ですし、じつは大変なことです。若い皆さんは今はやれる事に、がむしゃらに突き進んでいらしたら良いのです。私の最初の著書に父が「聞いときなはれや。それがいつかほんまになりまんねんで。」という言葉を寄せてくれました。若かった父が大和の古老から聞いた言葉です。私の本がインタビューをまとめた一冊でしたから、年長者の言う事は素直に耳を傾けるのだよという戒めをもらいました。

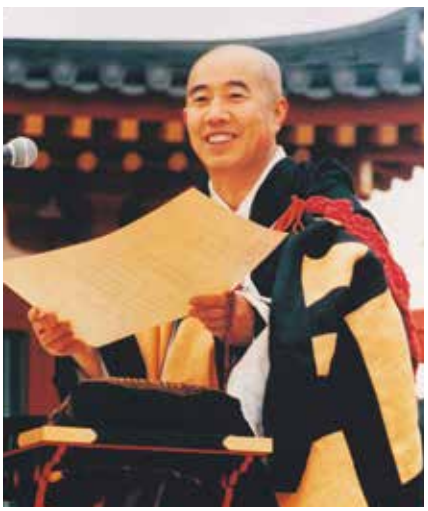
倍巌　そうですね。私もお参りの際に、そのお家の亡くなったおばあさんのはなしで、「あの時、おばあさんが言ってたね。」ということを聞いたりするんですね。おそらくそういうことなんですね。

高田　人生も後半に入ってくると、もっと聞いておくべきだったと思うようになるから。

話が前後しますが、私が理事長と初めてお会いしたのは、台湾での植樹法要で、理事長は当時大学生でしたでしょうか。膨大なる台湾のヒノキを頂いて薬師寺は伽藍復興をしましたので、その御礼の植樹法要でしたよね。平成8年の台湾訪問の際には、御祖父さまの倍巌良舜管長様が参加くださったのですが、倍巌管長は父の龍谷大学時代からの二級上の先輩。理事長はそのお供に来られて、お傍近くでよく仕えてらして、いつもにこにことなんと可愛らしい坊ちゃんだことと思いました。その年の春に薬師寺の大講堂の起工式も無事終えて、晩秋に父は病床につきました。面会謝絶にしてどなたのお見舞も受けなかったときに、叔父さまの良明さんが「僕は（高田好胤）管長さんのお見舞いではなくて、介護がしたいのです」と介護に通って下さいました。御祖母さまの美味しい手作りのお弁当を父は心待ちにしていたのですよ。

利他のこころ

倍巌　私たち自身が成長するだけでなく、まちの成長が「明るい豊かな社会の実現」に繋がると考え



高田 好胤（たかだ こういん）

薬師寺元管主。法相宗管長。分かりやすい法話により「話の面白いお坊さん」、「究極の語りのエンタテイナー」とも呼ばれ、そこから百万巻写経勧進の道を切り開いて金堂、西塔など薬師寺の伽藍の復興に道筋をつけるなど、薬師寺の再生に生涯をささげた。
1998年6月22日遷化。

ます。まちを成長させるには、他が為に行動する利他の心が必要になってきます。利他のこころについてお聞かせいただけますか。

高田 利他の心・・・、仏教の難しいことはわかりませんけれども、傍というのは傍迷惑の傍ですね。「働く」という言葉は、「傍（はた）が楽になる」から働くなんです。すごくいい言葉ですよね。仏教で捨身（しゃしん）の行（ぎょう）というのがありますよね。地域の為に身を捨てて、自分の体を使って奉仕させてもらう。JCの活動は捨身の行をおこなっているということではないでしょうか。自ずと佛教の道にも繋がっているようですね。理事長は融通念仏宗 法徳寺の副住職ですし、僧侶であるゆえの理事長の活躍もありますね、きっと。楽しみでございます。

倍巌 なるほど、私たちの地域に対して行っていく運動こそが利他のこころに通じるところであるんですね。

市民意識の変革

倍巌 私たちもまちの人々に語りかけ、市民意識を変革していこうとしています。市民意識が変わればまちも変わっていくはずです。

高田 やりがいがありますね。人生の極意なんて本当は簡単な事かもしれません。たとえば「正直」「親切」「勤勉」がそうであると思うのです。それと今、気になるのは日本語が乱れているということです。この前、携帯電話の使い方がわからなくて問い合わせたら「電波は通じてらっしゃいますか？」なんて言うものだから、問題が解決して用件が済んだあとに、「あのね、おかげさまで携帯電話の不具合については解決しました。私はあなたに教えを乞う立場のユーザーではあるけれど、ここからは人生の先輩として言わせてもらいたいのだけれど、言葉が変でしたよ、電波は通じてますか？でいいのですよ」と言いました。相手にはうるさいなと思われるかもしれませんが、言葉使いが不適切だと指摘していいのです。だって言葉は言霊（ことだま）ですから。正しい言葉を使っていないと人間だって曇ってきますもの。

それから、父から教えてもらった言葉に「よき友は心の花の添え木かな」っていうのがあるのですが、添え木とはお花を活けるときに花の位置を固定するときに用いる木片を添え木というのです。人と人の繋がり、友人は大事です。

倍巌 それって一番大事なことですね。JC活動においても、厳しい修練を共に乗り越えるから生涯の友ができるんです。

高田 或るときお釈迦様にお弟子さんが「人生よき友に出会うことは、人生幸せの半ばに値するほど有難いことですね」とお尋ねした時、お釈迦様は「いやそうではないよ。人生よき友に出会う。それはこの世の幸せの全てである」とお答えになられました。「人生にはいろいろなパートナーがありますが、友達は親や夫婦、または肉親とは違った意味で大切なものです。肉親にははばかられる相談も友達にはできるということもあります。いろいろな意味で、友達には自分と等身大の親しみがあるものです。そういう心の友を持っている人は決して自殺をすることはないと聞いたことがあります。JCでは良き友を得られますでしょ。その良き友が心と力を合わせて地域の活動をするなんて素晴らしいですね。

倍巌 そうですね。JCの三信条というものがありまして、奉仕・修練・友情です。地域に対する奉仕と、奉仕するためにいろいろな修練をしていきましょうということと、事業を通じて友情を育んでいきましょうというものがあります。世界組織でもありますので、世界との友情という意味合いも含まれています。

高田 最後に、理事長としての抱負を教えて下さいな。

倍巌 まちを成長させるにはそこに住み暮らす人たちの成長が大事だと思います。住み暮らす人たちに成長してもらうには、まちづくりの根本に携わっている私たち自身がまずは自己を高めていき、発信していきたいと思っています。まずは人財育成に力を入れていきたいと思っています。

奈良に住んでいる我われの持っている利他のこころや、おかげさまのこころというものを、もっと自分の中に落とし込んで、奈良の魅力を奈良に住み暮らす若者や観光にいらっしゃる方々に発信していかなければならないと思っています。

高田 一人一人が奈良の歴史や文化を勉強せねばなりませんね。拝読させていただいた理事長所信にもあった「運動に掛け算はありません。足し算です。」の言葉の通り、一歩一歩着実に活動を広げてくださいね。楽しみに致しております。

倍巌 はい、56年の先輩諸兄から受け継がれてきた歴史と伝統と志を大事にしてひとつひとつ積み重ねていけたらと思っています。最後に励ましのお言葉をいただきまして、ありがとうございます。

本日はありがとうございました。

理事役員紹介

2015

直前理事長
伊藤 政夫

第56代理事長
倍巖 智洋

特別顧問
森本 勝也

副理事長
井上 貴行

副理事長
熊木 一生

副理事長
西田　新

専務理事
井村 征路

組織開発室長
清水 宗一郎

おかげさまの力室長
堀川 雅嗣

利他のこころ創造室長
林　浩二

常務理事
櫻井 大輔

会員資質向上委員会
委員長
藤井 伸行

指導力開発委員会
委員長
藤井 保成

広報戦略委員会
委員長
有馬 憲治

徳の教育実践委員会
委員長
東　良憲

未来のまち創造委員会
委員長
三岡 祥之

渉外委員会
委員長
岩本 悠佑

会員拡大特別委員会
委員長
黒　浩嘉

総務委員会
委員長
森　隆士

事務局長
萩原 敏明

財政局長
坂田 智哉

監事

大石 義信

小北 道大

中本 政容

増尾　朗

公益社団法人 日本青年会議所
規則審査会議 議長
大石 義信

委員
中本 政容

総括幹事
櫻井 大輔

委員
岡本 憲二郎

委員
榎本 修

公益社団法人 日本青年会議所
副会頭
森本 勝也

本年、公益社団法人日本青年会議所の副会頭として出向させていただきます。
金沢青年会議所からご出向される柴田剛介会頭のもと、
「文化と文明が生み出す「底知れぬ力」による日本再興」
を基本理念として、地域と日本の課題と問題に真摯に向き合い、全力で邁進してまいります。
　これまでの経験といただいてきたご縁を力に変え、16年間の集大成として日本のため、全国の会員会議所のために己の全力をもって尽くし、走り抜けることをここにお誓い申し上げます。

公益社団法人 日本青年会議所
近畿地区協議会

誇れる近畿確立委員会

運営幹事
佐藤 伊左男

委員長
井上 貴行

会計幹事
森田 洋平

副委員長
小松 修治

財政規則特別委員会

委員
坂田 智哉

地域未来創造委員会

委員
見山 高幸

公益社団法人 日本青年会議所
渉外委員会

委員
早川 祐介

委員
加藤 陽興

副委員長
西田 新

委員
宮崎 義久

委員
澤田 大介

委員
乾 規世

委員
山川 喜平

委員
中野 愛一郎

委員
岩本 悠佑

出向者紹介

公益社団法人 日本青年会議所
近畿地区奈良ブロック協議会

LOM支援委員会

委員
上田 良太

委員
高浦 義昌

魅力ある地域再興委員会

委員
大島 啓希

委員
新宅 香介

ブロック大会運営委員会

委員
大野 恵司

委員
尾田 安信

地域人材育成委員会

委員長
見山 高幸

幹事
三瀬 義男

委員
沖津 繁則

監査担当役員

監査担当役員
熊木 一生

新入会員紹介

中川　崇

1985年12月10日生まれ
勤務先：中川商事

家業の繊維問屋、中川商事で働いています。祖父の代に創業し、戦後社会の学校・会社・工場の制服需要に応えてきました。兼業農家でもあり、ヒノヒカリを３トン収穫しています。
ＪＣについては―昨年に元理事長と出会い、全国大会の東大寺イス並べに参加させていただきました。まちづくり団体の役員を務めるなかでもＪＣ関係者と出会うことが多く、興味を持っていました。２９歳とまだまだ未熟ですが、どうぞ宜しくお願い致します。

木村 篤史

1984年1月21日生まれ
勤務先：
プルデンシャル生命保険株式会社

私は外資系金融機関でライフプランナーとして、全国各地のお客様にお会いする仕事をしています。ＪＣの活動を通して、まずは地元である奈良の「明るく元気な街づくり」に貢献することで自分自身を磨いていきます。
常に人との「ご縁」に感謝し、日々感謝の気持ちを大切にしていきます。
どうぞよろしくお願いします。

太田 晃司

1979年1月12日生まれ
勤務先：奈良市議会

平成２５年より奈良市議会議員をさせて頂いております。市民の皆様から付託を受けた議会議員は、市の意思を決定する事柄を議決機関で諮ります。目的を一言で表すならば、よりよき奈良の未来の暮らし・安全やまちづくりのためです。ＪＣ活動が目指す奈良の「明るい豊かな社会の実現」に向けて、若き青年団体の末席に加えて頂きましたことに感謝申し上げ、共に顔晴って参りたいと思います。ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

年間例会紹介

1月9日	1月第一例会	入会式
1月13日	1月第二例会	新年会
2月12日	2月第一例会	第８０回総会
2月26日	2月第二例会	会員拡大例会
3月9日	3月第一例会	会員資質向上例会
4月25日	4月第一例会	徳の教育実践例会
5月3日	5月第一例会	天平祭
6月28日	6月第一例会	未来のまち創造例会
7月10日	7月第一例会	入会式
7月11日～12日	7月第二例会	近畿地区大会　草津大会
8月1日	8月第一例会	徳の教育実践例会
9月13日	9月第一例会	奈良ブロック大会　葛城大会
9月17日	9月第二例会	第８１回総会
10月16日	１０月第一例会	４ＪＣ合同例会
10月22日	１０月第二例会	新旧合同例会
11月19日	１１月第一例会	卒業生講師例会
12月14日	１２月第一例会	卒業式・忘年会

ウェブまほら（２０１５年度まほら第２号）発刊のご案内

本年度 まほら2号 の発刊は、奈良青年会議所ホームページにて 8月 に配信を予定しております。

発刊の通知をご希望の方は、下記 URL 奈良青年会議所ホームページより配信通知メールの登録をいただくか、下記メールアドレスに空メールを送信してください。ご登録いただきましたメールアドレス宛に、発刊時に通知メールを送信させていただきます。

発刊通知登録用メールアドレス ▶ 2015narajc.mahora@gmail.com

奈良青年会議所は、明るい豊かな社会の創造に向けて活動しています。
２０～３０代の会員を募集しています。

奈良青年会議所の活動はホームページや Facebook ページでもご覧になれます。

ホームページ▶ http://www.nara-jc.or.jp

Facebook▶ http://facebook.com/narajc

奈良青年会議所　検索

一般社団法人 奈良青年会議所 広報誌「まほら」２０１５ Vol.1 ２０１５年２月 発刊 通巻４４７号

発行：一般社団法人 奈良青年会議所
〒630-8213　奈良市登大路町36-2 商工会議所会館 4F
TEL. 0742-26-0112　FAX. 0742-23-5519
URL. http://www.nara-jc.or.jp

編集：広報戦略委員会
有馬 憲治（委員長）　鈴木 一生（副委員長）　上中 一成（幹事）
池田 泰章　勝山 弘樹　北原 智行　出口 雅也
三瀬 義男　湯脇 大樹

印刷：株式会社 明新社